



解説書

採譜・解説 / ジム・ケリー

目次

序文にかえて	4
はじめに	4
譜面について	4

PART 1

3音のヴォイシング

exercise 1 a) b):ダイアトニック・トライアド(key C、1・2・3弦)	6
exercise 2 a) b):ダイアトニック・トライアド(key C、2・3・4弦)	7
exercise 3 a) b):I度-IV度-V度のトライアド	8
exercise 4 a) b):I度-IV度-V度とI度m-IV度m-V度mのトライアド	9
exercise 5 a) b):I度-II度m交互のトライアド・グルーヴ	9
exercise 6 a) b):メジャーとハーモニック・マイナーのトライアド	10
exercise 7:クラシック的トライアド・スタディ	11
exercise 8 a) b):スプレッド・トライアド	11
exercise 9 a) b):メジャーとマイナーのスプレッド・トライアド	12
exercise 10:Eマイナーの3音スタディ	13

PART 2

4音のヴォイシング

exercise 11 a) b):4音のダイアトニック7thコード	14
exercise 12:25種類の4音コード	15
exercise 13:スウィング・スタイルのコード進行	16
exercise 14:分数コード(ベース音上のトライアド)	17
exercise 15:逆方向移動する分数コード	18
exercise 16:キーボード・スタイル・ヴォイシング	18
exercise 17:フュージョン・スタイル・ヴォイシング	19
exercise 18:ミクソリディアン・グルーヴ	19

PART 3

5音・6音のヴォイシング

exercise 19:24種類の5音コード(5弦ルート)	20
exercise 20:14種類の5音コード(6弦ルート)	21
exercise 21:ジャズ・ヴォーカル・バックギング・スタイル	21
exercise 22:インサイド・ラインの移動	22
exercise 23 a) b):5音オープン・ヴォイシング	22
exercise 24:25種類の6音コード	23
exercise 25:ブルース・バラード・スタイル	24

PART 4

2音のヴォイシング

exercise 26 a) b):2音ダイアトニック1(3度)	26
exercise 27 a) b):2音ダイアトニック2(2度)	26
exercise 28 a) b):2音ダイアトニック3(4度)	27
exercise 29 a) b):2音ダイアトニック4(5度)	28
exercise 30 a) b):2音ダイアトニック5(6度)	28
exercise 31 a) b):ペダル・ノート・スタディ	29
exercise 32 a) b):スキッピング・ヴォイシング(6度、1・3弦)	29
exercise 33 a) b):ダイアトニック7thヴォイシング	30
exercise 34 a) b):オクターヴ・グルーヴ	31
exercise 35:コンビネーション・グルーヴ	31

PART 5

開放弦を加えたヴォイシング

exercise 36:1本の開放弦の移動コード	32
exercise 37 a) b):2本の開放弦と3音コード(6弦ルート中心)	32
exercise 38 a) b):2本の開放弦と3音コード(5弦ルート中心)	33
exercise 39:内声部移動オープン・ポジション・コード	34
exercise 40:3弦開放弦グルーヴ・スタディ	35

PART 6

様々な組み合わせのヴォイシング

exercise 41:I度-VI度-II度-V度ポップ的ジャズ・グルーヴ	36
exercise 42:ドリアン・グルーヴ	37
exercise 43:ジャズ・ファンク・グルーヴ	37
exercise 44:2度入りクラスター・グルーヴ	38
exercise 45:ピアノ/ホーンのヴォイシング・グルーヴ	38
a) ルンバ・ブルース・コンピング	
b) シャッフル・ファンク・スタイル・ヴォイシング	
c) スウィング・スタイル・ヴォイシング	
d) スウィング・ホーン・セクション・スタイル	
e) クロマチック・ドミナントのペダル・メロディ	
exercise 46:ブルース・コンピング	40

デモ演奏について	42
おわりに	46
プロフィール	46

序文にかえて

こんにちは、トモ藤田です。いつも、「演奏能力開発エクササイズ」を使っ
ていただいてありがとうございます。

今回の第4弾「コード／ヴォイシング強化編」は、僕自身とても興味のある内
容で、僕自身がやるということも考えましたが、ここはバークリー音楽院ギタ
ー科の中で一番リクエストの多い教授、ジム・ケリーにお願いしました。

僕の考えた“コード理論をエクササイズでマスター”というコンセプトをジム
にリクエストしたのですが、自分の尊敬する先生にやってもらうわけですから、
これは僕にとっては夢のようなことでした。

結果は、超満足！ 今までにない、わかりやすく使いやすいコード／ヴォ
イシングが満載で、コード理論もこれで練習すればオッケーです。

ジムとのデュオによるデモ演奏も、それだけでも演奏の楽しさが伝わるもの
になりました。

どうぞ皆さんも、楽しんでエクササイズに取り組んでください！

はじめに

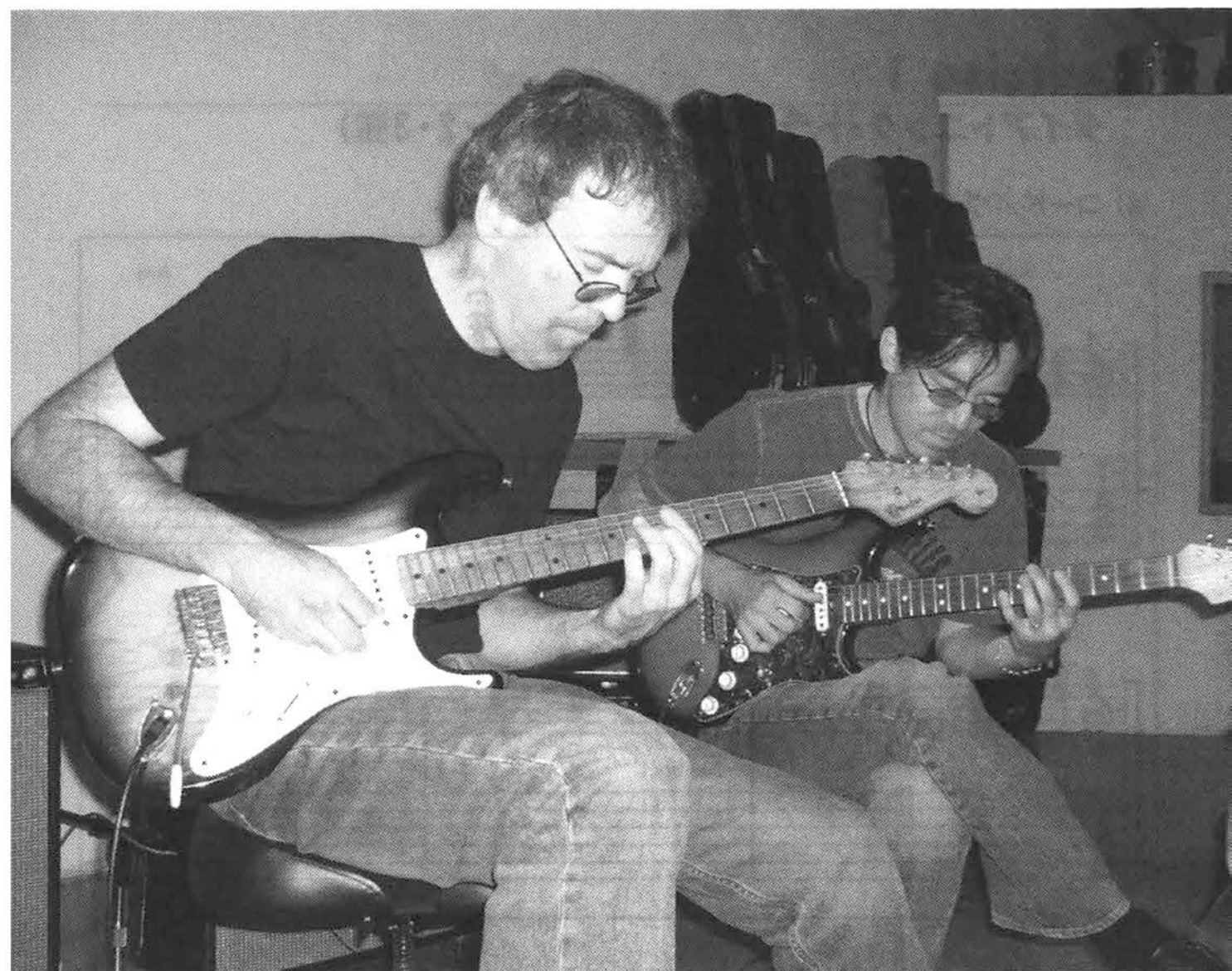
皆さんこんにちは、ジム・ケリーです。DVD付きムック「演奏能力開発エクサ
サイズ アコースティック・ギター」に引き続き、こうして皆さんとまたお会い
できたことを嬉しく思います。

このDVDでは、新しいコードのアイデアを紹介したり、皆さんが既に身に
付けているコードに対する理解をしっかりとしたものにしていきたいと思っ
ています。また、単なるエクササイズだけでなく、実際に使用可能な演奏例
についてもいろいろと紹介していきます。さらに、監修・ゲストとして参加し
てくれたトモ藤田とのデモ演奏では、今回紹介するエクササイズのアイディ
アを数多く使用してプレイしています。

それでは早速、一緒に始めていきましょう！

譜面に関して

解説書に収録された譜面は、すべてインストラクターが自ら作成したオリジ
ナル・スコアを使用しています。インストラクターの意向により、なるべくシ
ンプルで見やすい形にしてありますが、DVDにおける実際のインストラクタ
ーの演奏では、譜面に表しにくい細かなニュアンスやアクセント・装飾、微
妙なリズムの揺れ・ズレなどが加えられており、自由な感覚を重視したもの
になっていますので、その点はご了承ください。



PART 1 3音のヴォイシング

パート1では、スリー・ノート・ヴォイシング(3音ヴォイシング)と呼ばれる、3つの音によるコードを取り上げます。ほとんどのコードは、ルート音に重ねた形のトライアド(3和音)です。ここでは主にトライアドにフォーカスを当てて学び、そのヴォイシングを使っていきます。ここで紹介するトライアドは、ネックの他のポジションでプレイすることも可能ですので、徐々に様々なポジションでもプレイできるようにしていきましょう。

左手のフィンガリングに関しても様々な可能性があります。まずはDVDにおける私のフィンガリングをよく観て試し、それから自分が弾きやすいと思うフィンガリングを見つけていくことをお勧めします。

exercise 1

ダイアトニック・トライアド(key C、1・2・3弦)

a) コード／ヴォイシング・サンプル

Am B° C Dm Em F G Am Em F G Am

Root Pos.

1st Inv.

2nd Inv.

B° C Dm Em C Dm Em F G Am B° C

b) プレイ・サンプル

Dm C G F Em F Dm Fine

Am G Am D.C. al fine With Repeats

●ここでは、ダイアトニック・トライアドと呼ばれる、Cのキーに関連するトライアドのルート・ポジション(基本形)、第一転回形、第二転回形を紹介しています。プレイするのは、トップ(高い方)の3本の弦のみです。bは、それらを使った演奏例になっています。

exercise 2

ダイアトニック・トライアド(key C、2・3・4弦)

a) コード／ヴォイシング・サンプル

C Dm Em F G Am B° C Em F G Am

1st inv.

Root pos.

B° C Dm Em G Am B° C Dm Em F G

2nd inv.

b) プレイ・サンプル

F (mute) C G C C

●2(B)弦のトップ・ノートから始まる、Cのキーのダイアトニック・トライアドです。これらを全ての弦の組み合わせで学ぶことが重要です。bは、それらを使った演奏例です。

exercise 3

I度-IV度-V度のトライアド

a) コード／ヴォイシング・サンプル

C F C G C F C G C F C G C

TAB: 5 6 5 3 8 10 8 8 13 13 13 12 13
5 7 5 4 9 10 9 7 12 14 12 12 12
5 7 5 5 10 10 10 9 14 15 14 12 14

b) プレイ・サンプル

C (muted) F C G7 (2nd) C F C G C

TAB: 5 5 5 8 6 7 5 6 8 5 5 5 3 3 5 4 5 6 5 (8)
8 8 13 10 10 13 8 8 13 12 12 13 8 (13)
13 13 15 13 13 15 13 13 15 12 12 15 13 12 14 15

●2・3・4弦上でのI度-IV度-V度のプレイを学びます。これらは、非常に一般的で重要なコード進行です。bは、アルペジオやコードのミュートによるリズム・パートとして使用した演奏例です。

exercise 4

I度-IV度-V度とI度m-IV度m-V度mのトライアド

a) コード／ヴォイシング・サンプル

C F C G C Cm Fm Cm G Cm

TAB: 8 8 8 7 8 12 13 12 10 12 13 13 12 10 12 13 13 12 12 12 11 13 11 10 11
8 10 8 7 8 13 13 13 12 12 13 13 13 12 12 13 13 13 12 12 12 13 13 12 12 12
9 10 9 7 9 12 14 12 12 12 12 14 15 14 12 12 12 12 12 12 13 13 12 12 12

b) プレイ・サンプル

Cm Fm Cm G Cm

TAB: 8 8 8 10 8 8 8 8 10 8 8 8 8 8 8 7 7 7 10 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8
8 8 8 8 8 9 9 9 9 9 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8
8 8 8 8 8 10 10 10 10 10 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8

●前半は、1・2・3弦上でI度-IV度-V度をプレイしたもので、後半は、Cのハーモニック・マイナーと結びつくI度マイナー-IV度マイナー-V度マイナーになっています。bは、ハーモニックマイナーを使った演奏例です。

exercise 5

I度-II度m交互のトライアド・グルーヴ

a) コード／ヴォイシング・サンプル

C Dm C Dm C Dm C

TAB: 0 1 3 5 8 10 12
0 3 5 6 8 10 13
0 2 5 7 9 10 12

b) プレイ・サンプル

●全ての転回形で、I度-II度マイナー(C-Dm)で繰り返されるトライアドを紹介したものです。R&Bやゴスペル音楽などで非常に役に立つものです。bは、それらを使った演奏例です。

exercise 6

メジャーとハーモニック・マイナーのトライアド

a) コード/ヴォイシング・サンプル

b) プレイ・サンプル

●メジャーやハーモニック・マイナーにおいて、1・2・3弦上でI度-IV度-V度をプレイする別の方法を示したものです。bは、これらのコードをリズム・パートに適用させたものです。

exercise 7

クラシック的トライアド・スタディ

●Cに関連するメジャーやマイナー・トライアドをたくさん使って書かれた短い音楽サンプルで、クラシック的なサウンドがします。きちんとはっきりと弾くように心がけてください。

exercise 8

スプレッド・トライアド

a) コード/ヴォイシング・サンプル

b) プレイ・サンプル

C F Em G Am G F Em F Dm C Dm B° Dm C

TAB: . 5 10 8 12 13 12 10 8 10 6 5 6 3 6 . 5
 . 5 10 9 12 14 12 10 9 10 7 5 7 3 7 . 5
 3 8 7 10 12 10 8 7 8 5 3 5 2 5 3

●これらのコードは、Cのキーにおけるダイアトニック・スプレッド・トライアドと呼ばれるものです。スプレッド・トライアドとは、トライアドの真ん中の音(3度)の1オクターブ上または下の音を加えて、言葉通り音域を広げたものです。したがって音の並びは、下からI度・V度・III度かIII度・I度・V度、またはV度・III度・I度となります。bは、それらを使った演奏例です。

exercise 9

メジャーとマイナーのスプレッド・トライアド

a) コード／ヴォイシング・サンプル

C Cmin

TAB: 5 5 8 13 12 15 20 4 8 13 11 15 20
 2 5 9 12 10 14 17 5 5 8 12 10 13 17
 3 3 7 10 10 14 17 3 3 6 10 10 13 17

b) プレイ・サンプル

C Ab/C F/C Ab/C Cm G/B Fm/C Cm

TAB: . 5 4 6 4 . 4 4 3 3 6 6 4
 . 5 6 7 6 . 5 5 5 5 6 6 5
 3 3 3 3 . 3 3 2 2 3 3 3

●スプレッド・トライアドのフィンガリングで、Cのメジャーとマイナー・トライアドをプレイしたものです。時にはピックを使わず指でプレイすることもあります。その場合は、親指と人差し指、そして中指を使います。bは、それらを使った演奏例です。

exercise 10

Eマイナーの3音スタディー

E5 D C B7 E5 D C B7 Em G D Em G B7 G C G C Cm D7 G C#m7(b5) Em C#m7(b5) D B7 E5 D C B7 E5 D C B7 Am Em Am E5

TAB: 5 5 7 8 7 5 5 7 8 7 3 3 5 7 5 3 3 5 7 5 7 7 8 5
 4 4 7 7 4 4 7 3 4 4 5 5 7 7 8 4 4
 2 7 9 7 2 7 9 7 2 5 5 4 2 5 6 4 2
 8 6 8 6 8 6 5 4 5 4 5 4 5 6 4 2

●3音ヴォイシングを基本にした短い練習曲です。ここでは、トライアドと7thコードの一部である3音コード、もしくはトライアドに代わる音などが含まれています。ピックではなく、指でフィンガリングし、ゆっくりとしたテンポでプレイしてみましょう。

PART 2 4音のヴォイシング

パート2では、4つの音によるヴォイシングを取り上げます。7thコードのフィンガリングもありますし、1つかそれ以上のコード・トーンの代わりにテンションを加えた4音のコードもあります。ただし、これらが可能な全てのコード・リストというわけではありませんし、それらを紹介すると、1冊の本ができあがってしまいます。よって、ここでは様々なアイデアをミックスして紹介しています。

exercise 11

4音のダイアトニック7thコード

a) コード／ヴォイシング・サンプル

Chord voicings for exercise 11a:

- Cmaj7 Dm7 Em7 Fmaj7 G7 Am7 Bm7(b5)
- Cmaj7 Fmaj7 G7 Am7 Bm7(b5)
- Cmaj7 Dm7 Em7 Fmaj7

Tablature for the first row of chords:

T	5	6	8	10	12	13	15	17	1	3	5	6	8	10	12	13
A	4	5	7	9	10	12	14	16	2	4	5	7	9	10	12	14
B	3	5	7	8	12	14	15	17	2	3	5	7	9	10	12	14

b) プレイ・サンプル

Chord sequence for exercise 11b:

- Cmaj7 Em7 Fmaj7 Dm7 Bm7(b5) Dm7 Cmaj7 G7
- Fmaj7 G7 Am7 Dm7 Cmaj7 G7 Cmaj7

Tablature for the first row of chords:

T	5	6	8	10	6	3	6	5	3	5	5	6	3	3	5	5
A	4	5	7	9	10	2	3	4	5	4	5	7	5	4	5	4
B	3	5	7	8	10	2	3	5	7	3	5	4	3	4	3	5

●これらはダイアトニック7thのコードになっています。最初は5(A)弦でルートを弾き、次に6(ローE)弦でルートを弾いています。bは、ヴォーカル・スタイルのコード・バックアップの中でそれらのサウンドをミックスさせた演奏例となっています。

exercise 12

25種類の4音コード

Chord voicings for exercise 12:

- F Maj9 E7(#9) Gm9 C13 Bm7(b5) E13(b9)
- A⁶ A^b7(b13) D^bMaj7 B^bm7 B9(#11) B9
- A^bm11 G7(b5) G^bMaj7 F7+ B^bm7 D^b9
- Cm7(b5) A^o7 A^bm6 Am7(#5) A^b9sus4 A13sus4 Dm69

Tablature for the first row of chords:

T	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
A	9	7	10	9	7	10	9	7	10	9	7	10	9	7	10	9	7
B	8	7	10	8	7	10	8	7	10	8	7	10	8	7	10	8	7

●ここでは、たくさんのコード・サウンドをリストアップしてみました。全て同じルートから弾くことを避けて、コードからコードへ、音楽的にもコード進行として流れるようにやってみました。同じヴォイシングは一つとしてありませんので、様々なコード・サウンドとフィンガリングが体験、プレイできるはずです。

exercise 13

スウィング・スタイルのコード進行

●1～4弦上における4音を学びます。一般的なコード進行によるAABA形式の曲になっています。慣れてきたら、様々なリズムでもプレイしてみましょう。

exercise 14

分数コード(ベース音上のトライアド)

●ベース音上のトライアドです。4つのセクションをつなぎ合わせた、ポップ・ジャズ感覚の演奏例になっています。最初は個々のセクションを別々に練習して、その後4つのセクションを一緒にプレイすると良いでしょう。

exercise 15

逆方向移動する分数コード

Chords: D/C, D^b/D^b, C/D, B/D[#], B^b/E, B/D[#], D^b/D^b, D/C, C/D^b, C[#]/C, D/B, E^b/B^b, E/A

TAB: 7 6 5 4 | 3 4 5 6 | 7 7 7 7 | 5 6 7 8 | 9 9 9 9 | 7 7 7 7 | 5 6 7 8 | 9 9 9 9 | 8 7 6 5

●私自身は、“鏡に映った蜘蛛”と呼んでいるものです。トライアドとベース音が上下逆の方向に進んでいくため、ストレッチのための良いエクササイズにもなります。

exercise 16

キーボード・スタイル・ヴォイシング

Chords: F/G, G/C, A^b/B^b, B^b/E^b, C/D, (F/D), Dm7, C/D, Dm7, B^b/E^b, E^b, Cm7, B^b/C, Cm7, A^b/D^b, D^b, Dm7

TAB: 1 3 | 2 4 | 4 6 | 5 7 | 8 8 | 6 5 | 6 5 | 6 5 | 6 8 | 7 8 | 4 3 | 3 3 | 4 3 | 4 3 | 4 6 | 6 5 | 7 5 | 5 5 | 6 6 | 8 8 | 8 8 | 6 6 | 6 6

●ポップ・ジャズ的な曲の中で、トライアドとベース音をどのようにプレイできるかを示したものです。これらはキーボードのパートに似ています。

exercise 17

フュージョン・スタイル・ヴォイシング

Chords: D^b/C, C/B^b, B^b/A^b, A^b/G, B^b/A^b, A^b/G, B^b/A^b, C, E^b/F, F/B^b, B^b/E^b, D^b/C, C/B^b, B^b/A^b, A^b/G, B^b/A^b, C/B^b, B^b/A^b, C/B^b

TAB: 6 5 3 | 6 5 3 | 1 3 1 3 | 1 3 5 3 | 8 8 8 8 | 10 10 10 10 | 8 8 8 8 | 6 6 4 | 3 4 3 4 | 3 4 3 4 | 3 5 3 5 | 3 5 3 5 | 6 6 4 | 6 5 3 | 1 3 5 3 | 3 5 3 5 | 8 8 8 8 | 6 6 4

●トライアドとベース音を使って、不協和音の効果を生み出したものです。ブレッカー・ブラザースやチック・コリア、ジョン・マクラフリンなどが、こういった不協和音を曲の中で使用しています。

exercise 18

ミクソリディアン・グルーヴ

Chords: C7, C9sus4, C9, C9sus4, C9, C13, C7sus4, C13

TAB: 1 1 1 3 | 1 1 1 3 | 1 1 1 3 | 5 6 | 8 10 | 11 13 | 13 13 | 13 13 | 2 2 2 3 | 2 2 2 3 | 2 2 2 3 | 5 6 | 7 7 | 8 9 | 10 10 | 10 10 | 10 10 | 10 10 | 8 8 | 8 8 | 8 8 | 8 8 | 8 8 | 11 13 | 13 13 | 13 13 | 13 13

●これらのコードは全てCのミクソリディアンと結びついています。メロディは2(B)弦上で上行するスケールとなっています。このように、C9やC13といったコードを代理コードとして使ってみましょう。

PART 3 5音・6音のヴォイシング

パート3では、5音と6音によるヴォイシングを取り上げます。ここでも、全てのコード・リストを紹介するわけではありませんが、プレイしやすく、特にジャズの場合などではとても役に立つものをたくさん紹介しています。より一層の異なるスタイルを聴き、様々な音楽を知ることによって、ここで紹介するコードももっと役に立つものになるはずです。

exercise 19

24種類の5音コード(5弦ルート)

●パート2のexercise 12と同じアイデアです。5音のコード・リストのようになっていますが、それらはコード・プログレッションのように聞こえます。これらを学ぶことによって、全てに5(A)弦上でのベース音(ルート音)が付いた24の異なるサウンドを身に付けることができます。

exercise 20

14種類の5音コード(6弦ルート)

●exercise 19と同じコンセプトですが、ここではルート音は6 (ローE) 弦でプレイします。

exercise 21

ジャズ・ヴォーカル・バックング・スタイル

●ジャズ・ヴォーカルのバックングのようなサウンドを学びます。ヴォイシングは、5(A)弦または6(ローE)弦上でのルート音が付いた5音のコードがミックスされています。少しゆっくりとしたテンポで練習しましょう。

exercise 22

インサイド・ラインの移動

Three systems of musical notation for exercise 22. Each system consists of a treble clef staff with a melody line and a guitar tab below it. The first system shows a melody line with accents over the notes, and the tab below it. The second system is similar but includes a C2 chord. The third system shows a different melody line and tab.

●exercise 22と似たサンプルですが、もっと複雑なものになっています。ここでは、メロディにオープンCコードのG音を使用した、ムーヴィング・インターナル・ラインと呼ばれる可動するインサイド(内声部)のラインをプレイしています。

exercise 23

5音オープン・ヴォイシング

a) コード/ヴォイシング・サンプル

Five systems of musical notation for exercise 23, each showing a chord voicing in a treble clef staff and its corresponding guitar tab below it. The chords are Am9, Em9, CMaj7, B7+, and E7sus4.

b) プレイ・サンプル

A sequence of eight chords in 3/4 time: Am9, Em9, CMaj7, Em9, Am9, Em9, B7(b13), and E7sus4(min). Each chord is shown with a treble clef staff and a guitar tab below it.

●オープン・ポジションとしては、あまり馴染みのないコードと言えます。bは、それらを使った3/4拍子のスタイルでの演奏サンプルになっています。

exercise 24

25種類の6音コード

25 systems of musical notation for exercise 24, each showing a 6-note chord voicing in a treble clef staff and its corresponding guitar tab below it. The chords are: G, G7, Gmin, Gmin7, G7sus4, Gm9, G7, G7sus4, Gm7, G(add9), Gm(add9), G13, Gm7(#5), Gm7(b5#5), GMaj7(6#11), G13(#11), G7(b9#9b13), G7(#9), Gsus4(b9), G(addb9), GMaj9(6#11) (no 3rd), Gm7, GMaj13(#11), G13sus4, and GMaj7(69).

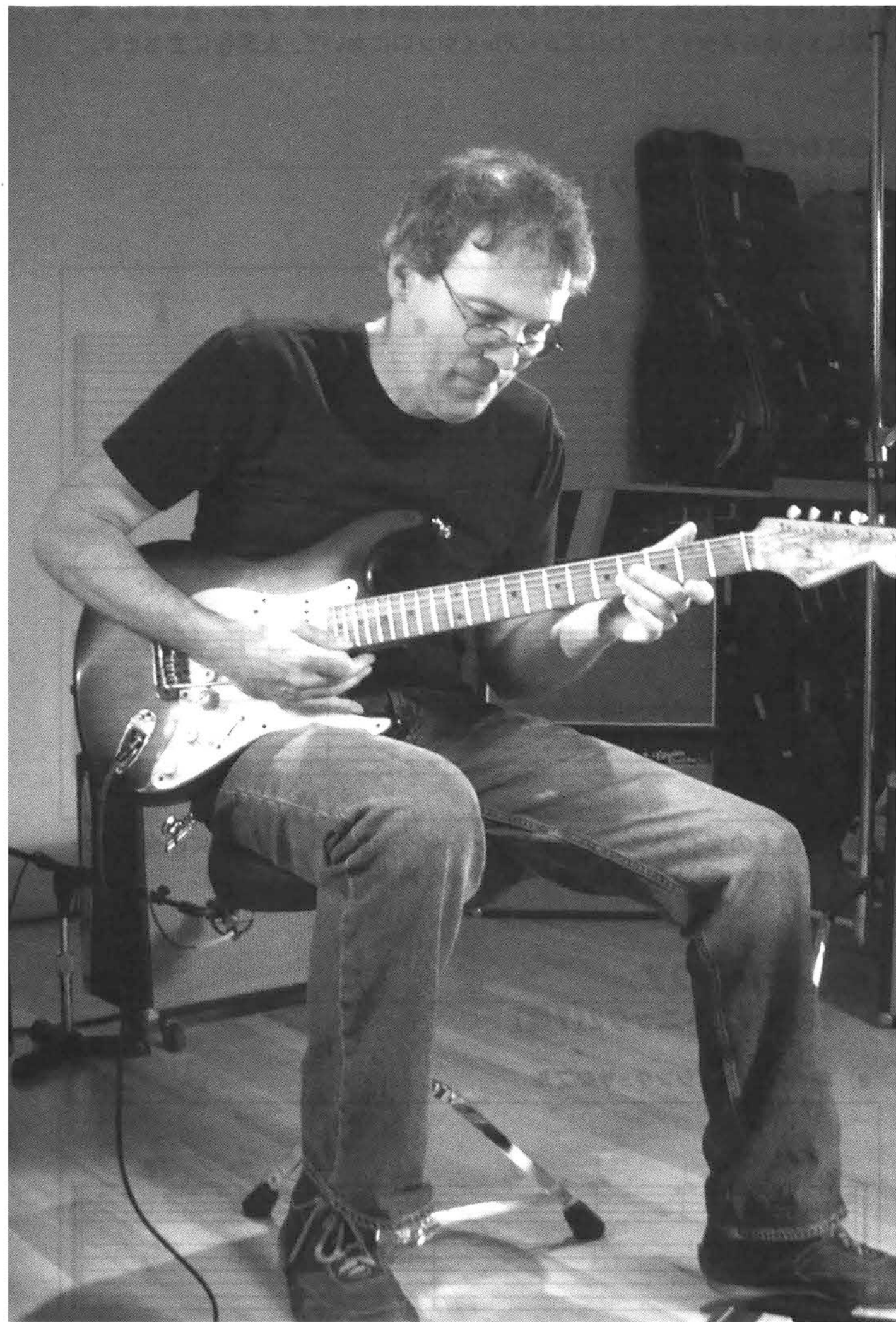
●G音をルートにした、6音によるコード・リストになっています。実際には、こうした多くの6音のコードを立て続けにプレイすることはありません。DVDでは4つのコード(4小節)ごとにスペースを取り、6弦・5弦・4~1弦へとゆっくり弾いていますので、注意して聴き分けてください。これらのヴォイシングには、かなりわかりにくいものも多くありますが、今も昔も役に立つものであると言えます。

exercise 25

ブルース・バラード・スタイル

The image shows a musical exercise for guitar. It consists of a staff with a treble clef and a key signature of one flat (B-flat). The time signature is 8/8. The exercise is written in a blues ballad style. The chords are Gm7, Cm7, Cm7Cm7, Gm7, and Cm7. The TAB below the staff shows the fretting for each chord: Gm7 (6, 8, 8, 10, 8, 3), Cm7 (8, 8, 8, 10, 8, 3), Cm7Cm7 (10, 8, 8, 10, 10, 8), Gm7 (6, 8, 8, 10, 8, 3), and Cm7 (8, 8, 8, 10, 8, 3). There are 'X' marks above some of the chords, indicating that the 6th string should be muted.

●6音のコードをいくつか使った、マイナー・ブルースのヴァンプになっています。6音をしっかりと押さえるのは少々難しいですが、良いサウンドが得られます。



PART 4 2音のヴォイシング

パート4では、ダブル・ストップとも呼ばれる2音のヴォイシングを取り上げます。これらのサウンドは、できるだけ多くの弦の組み合わせで学ぶべきですし、実際にあらゆるスタイルでのリズム・プレイやソロにおいて、大変役に立ちます。

exercise 26

2音ダイアトニック1(3度)

a) コード/ヴォイシング・サンプル

b) プレイ・サンプル

●1・2弦上のダイアトニック3rdによるヴォイシングです。最終的には全てのキーで学ぶべきでしょう。bは、それらを使った演奏例になっています。

exercise 27

2音ダイアトニック2(2度)

a) コード/ヴォイシング・サンプル

b) プレイ・サンプル

●これらの2度のインターヴァルは、非常に不協和なサウンドなので、エフェクティブなサウンドを生み出すときに向いています。bは、それらを使った演奏例です。

exercise 28

2音ダイアトニック3(4度)

a) コード/ヴォイシング・サンプル

b) プレイ・サンプル

●ダイアトニック4thのインターヴァルによるヴォイシングです。aの2小節目1拍目にトライトーンと呼ばれるオーギュメント4thが一つある以外は、全て同じインターヴァルになっています。bは、それらを使った演奏例です。

exercise 29

2音ダイアトニック4(5度)

a) コード／ヴォイシング・サンプル

b) プレイ・サンプル

●exercise 29の4thと同様、5thのヴォイシングによる2音も、aの2小節目3拍目にトライトーンの♭5thが一つある以外は、全て同じインターヴァルになっています。bは、それらを使った演奏例です。

exercise 30

2音ダイアトニック5(6度)

a) コード／ヴォイシング・サンプル

b) プレイ・サンプル

●これらのダイアトニック6thは、3(G)弦から1(E)弦へといったスキッピング(弦飛び)によってプレイされることもあります。ここでは2(B)弦と1(E)弦によってプレイしていますが、これは指のストレッチにもなります。bも3(G)弦から1(E)弦へといったスキッピングでプレイした方が、容易であることがわかってと思います。

exercise 31

ペダル・ノート・スタディ

a) コード／ヴォイシング・サンプル

b) プレイ・サンプル

●aの前半は、1(E)弦のトップ・ノートがスケールを上行しますが、2(B)弦のボトム・ノートは同じ音(ペダル・ノート)のままです。後半は、トップ・ノートが動かず、ボトム・ノートが低い音へと動いていきます。これらは、スケール上でのインターヴァルを練習する良い方法と言えます。bは、トップ・ノートをペダル・ノートとして維持する演奏例です。

exercise 32

スキッピング・ヴォイシング(6度、1・3弦)

a) コード／ヴォイシング・サンプル

b) プレイ・サンプル

●スキッピングによって6度のインターヴァルをプレイするものです。この6度のインターヴァルは非常に訳に立ちますし、一般的なものです。bは、それらを使った演奏例です。

exercise 33

ダイアトニック7thヴォイスング

a) コード／ヴォイスング・サンプル

b) プレイ・サンプル

●ダイアトニック7thのヴォイスングです。非常に不協和なサウンドです。bは、それらを使ったいろんな方法の中の一例です。

exercise 34

オクターヴ・グルーヴ

a) コード／ヴォイスング・サンプル

b) プレイ・サンプル

●オクターヴはハーモニーではありませんが、同じ音をダブルで聴かせるシンプルなものです。ジャズ・ギタリストのウェス・モンゴメリーが、このオクターヴ奏法の最高峰と言えますが、こうしたサウンドはファンクやR&Bのリズムにおいても使われることがあります。bは、それらを使った演奏例です。

exercise 35

コンビネーション・グルーヴ

●ポップスの曲のリズム・パートのようなサンプルです。ピアノ奏者は、こうしたパートと似た演奏を行います。こうした音は、実際にプレイするよりも、それとなくほのめかすようにプレイされることがあり、そうした音をゴースト・ノートと呼びます。

PART 5 開放弦を加えたヴォイシング

パート5では、開放弦を加えたヴォイシングを取り上げます。一般的なものに加え、それほど一般的でないフォームもいくつか紹介していきます。

exercise 36

1本の開放弦の移動コード

Chord	T	A	B
C	3	0	3
B Maj7	2	0	2
B7	2	0	2
C	5	0	3
Cm	4	0	3
C6	5	0	8

Open G Open B Open B Open G Open G Open G

●これらのコードは開放弦が1本含まれており、ネック上で開放弦を移動させることによって、新たなサウンドを分析したり、見つけたりすることができるはずで、開放弦を1本、まやはそれ以上加えたフォームはまだたくさんありますので、自分自身でさらに見つけていってください。

exercise 37

2本の開放弦と3音コード(6弦ルート中心)

a) コード/ヴォイシング・サンプル

Chord	T	A	B
AMaj7	(0)	6	5
A7	6	5	5
Am7	6	5	5
A7sus4	7	5	5
Am6	5	4	5
A6	6	4	5

b) プレイ・サンプル

Chord	T	A	B
C#m7	0	9	9
Bm11	0	7	7
AMaj9	0	6	6
G#7(#9b13)	0	5	4
G13	0	4	3
F#m11	0	2	2
FMaj7(#11)	0	2	2
G#m7(#5)	0	4	4
A6	0	4	4

●2本の開放弦を加え、その内1本は6(ローE)弦でルート音を弾くヴォイシングです。bは、それらを使った演奏例です。

exercise 38

2本の開放弦と3音コード(5弦ルート中心)

a) コード/ヴォイシング・サンプル

Chord	T	A	B
EMaj7	0	0	7
E7	0	7	7
E7sus4	0	7	7
Em7	0	7	7
Em6	0	6	7
E6	0	6	7

b) プレイ・サンプル

Chord	T	A	B
EMaj7	0	0	7
Eb7	0	6	6
DMaj7(69)	0	6	5
C#m7	0	4	4
CMaj7	0	4	3
B7sus4	0	2	2
E(add9)	0	1	2
F#m11	0	2	2
G#m7#5	0	4	4
AMaj9	0	6	6
EMaj7	0	0	7

●2本の開放弦を加え、その内1本は5(A)弦でルート音を弾くヴォイシングです。bは、6(ローE)弦によるルート音も組み合わせた演奏例です。譜面は基本リズムとなっていますので、自分自身のフィーリングで自由にグルーブしてみてください。

exercise 39

内声部移動オープン・ポジション・コード

Exercise 39 consists of several sections of guitar music. Section A includes chords C, C2, C, F, F2, F, C, C2, C, G, Gsus4, and G (2xs). Section B features Em7 and Am7. The middle section includes F, C, Csus4, and C. Section A' includes G, Gsus4, G, C, C2, C, F, F2, F. The final section includes C, C2, C, G, Gsus4, G, and C. Each section includes a treble clef staff with notes and a guitar tablature staff with fret numbers.

●内声部の音を動かしながら、オープン・ポジションのコードを使ったリズム・パートです。これは一般的なコードを変化させるには、巧妙な方法と言えます。

exercise 40

3弦開放弦グルーヴ・スタディ

Exercise 40 is a 3-string open string groove study. It features two systems of music. The first system includes chords C, C(add9#11), C, and C(add9#11). The second system includes F2, AbMaj7(#11), and C. Each system includes a treble clef staff with notes and a guitar tablature staff with fret numbers. The second system ends with a 'Repeat to Top' instruction and a C chord.

●これらのコードは、恐らく今回のエクササイズの中でも最も一般的でない方法であると思います。プレイしづらいとは思いますが、興味深いサウンドをいくつか見つけるヒントにもなるはずです。ここでは、常に3(G)弦が開放弦になっています。

PART 6 様々な組み合わせのヴォイシング

パート6では、異なる数の音が組み合わさったヴォイシングと、いくつかの異なるフィールを紹介します。

exercise 41

I度-VI度-II度-V度ポップ的ジャズ・グルーヴ

Exercise 41 consists of three systems of guitar tablature and chord diagrams. The first system is for $E\flat 6$ and $Cm7$. The second system is for $Fm9$. The third system is for $B\flat 13sus4$, $B\flat 9sus4$, and $E\flat 6$. Each system shows a treble clef staff with a key signature of two flats and a 4/4 time signature. The tablature includes fret numbers and 'X' marks for muted strings. Chord diagrams are provided above the treble staff for each system.

●5音に続き、2音のヴォイシングを使ったリズム・パートです。一つのパートで、2本のギターが弾いているように聴かせたデモンストレーションになっています。

exercise 42

ドリアン・グルーヴ

Exercise 42 is a single system of guitar tablature and chord diagrams for $Adrian(Am7)$. It features a treble clef staff with a key signature of one flat and a 4/4 time signature. The tablature includes fret numbers and 'X' marks for muted strings. A chord diagram for $Adrian(Am7)$ is shown above the treble staff. The piece ends with a 'Fine' marking.

●Aドリアンが2小節の16分音符グルーヴです。少々トリッキーであり、一般的でないヴォイシングもいくつか含まれています。

exercise 43

ジャズ・ファンク・グルーヴ

Exercise 43 consists of two systems of guitar tablature and chord diagrams. The first system is for $D7$, $D7(\#9)$, $G13$, $F\#7(b13)$, $Bm7$, $E9$, $A9$, $A9sus4$, $G13$, $F13$, and $F\#13$. The second system is for $A9sus4$, $A7(\#9b13)$, and $D7$. Each system shows a treble clef staff with a key signature of one sharp and a 4/4 time signature. The tablature includes fret numbers and 'X' marks for muted strings. Chord diagrams are provided above the treble staff for each system. The second system includes the instruction '(Play slight Rhythmic variations)'.

●ほとんどが、4音ヴォイシングが移動するリズムです。後半では、リズムの形がいかに変化するかにも注意しましょう。

exercise 44

2度入りクラスター・グルーヴ

●ヴォイスングのミドル・パートとも言うべき内声部で、2度のフォームをいくつか取り上げたものです。アラン・ホールズワースのようなギタリストが好むサウンドです。

exercise 45

ピアノ／ホーンの的ヴォイスング・グルーヴ

a) ルンバ・ブルース・コンピング

●ほとんどがベース音の上にトライアドが重なる、ルンバ・ブルースのコンピングです。

b) シャッフル・ファンク・スタイル・ヴォイスング

●重要なヴォイスングをいくつか使った、役に立つシャッフル・ヴァンプです。

c) スウィング・スタイル・ヴォイスング

●スウィング・フィールの中で、A7のメロディが移動するもので、とても役に立つヴォイスングです。

d) スウィング・ホーン・セクション・スタイル

●スウィング・バンドのホーン・セクション・パートのようなサウンドです。最後の小節で、フィルインをプレイしてみましょう。

e) クロマチック・ドミナントのペダル・メロディ

●ペダル・メロディの付いた、クロマチック・ドミナント・コードが含まれており、役に立つコンピングの技と言えます。

exercise 46

ブルース・コンピング

	B ^b 13	B ^b 9	E ^b 9	E ^o 7	B ^b 9	B ^b 13	B ^b 7sus4	B ^b 13	E9	E ^b 9
T	8	6	6	5	6	8	9	8	7	6
A	7	5	6	5	5	7	8	7	7	6
B	6	5	6	4	5	6	8	6	6	5
	6		6		6	6	6	6	7	6

	E ^b 9	E ^o 7	B ^b 9	A ^b 7	G7	Cm9	F7
T	6	8	6	6	4	4	7
A	6	6	6	6	3	7	7
B	5	8	5	5	3	5	6
	5	7	5	6	2	6	6

	F13	B ^b 9	G7(#9b13)	Cm9	F13	B ^b 13
T	6	6	6	6	10	8
A	7	5	4	4	8	7
B	7	6	4	7	8	6
	6		3	5	7	6

●B^bの12小節ブルースにおけるコンピング例です。ウォーキング・ベースの上で、メロディやソロをプレイできます。リズムを変化させ、他のコードをいくつか代わりに使って弾いてみましょう。



デモ演奏について

demonstration 1

"Trio"

Musical score for "Trio" in 4/4 time. It consists of three systems of guitar notation, each with a standard staff and a TAB staff. The first system has 4 measures, the second has 4 measures, and the third has 4 measures. The TAB notation includes fret numbers and bar lines.

●「トリオ」と名付けたソロ・パフォーマンスです。全体に3音のコード(ほとんどがドライアド)によって作曲しました。

demonstration 2

"Parade Funk"

Musical score for "Parade Funk" in 4/4 time. It consists of two systems of guitar notation. The first system is for a G7 chord and has 4 measures, with a (4xs) marking. The second system is for a Bb9 chord and has 4 measures, with an A (4xs) marking. Each system includes a standard staff and a TAB staff.

●パート1のエンディング・デモとしてプレイした曲です。G7が16小節、B \flat 9が16小節というリズム・パートの上で、トモ藤田とファンク・スタイルのグルーヴをジャムしています。2音や4音のヴォイスिंगとベース・パートがミックスされたグルーヴになっていますので、そういったフィールを聴き取ってみてください。

demonstration 3

"Mr. Redding"

Musical score for "Mr. Redding" in 12/8 time. It consists of four systems of guitar notation. The first system has 3 measures (C, E, F), the second has 3 measures (Fm, C, G), the third has 3 measures (C, Ab), and the fourth has 3 measures (C, Ab). The fourth system ends with an "OPEN" instruction. Each system includes a standard staff and a TAB staff.

●パート2のエンディング・デモです。トモ藤田と一緒にR&Bスタイルのアルペジオのコード・パートをプレイし、その上でソロを取っており、曲は8小節の形式になっています。最後は、2小節の2コード・ヴァンプをリピートし、フェイド・アウトしています。

demonstration 4

"Tapas"

Musical score for "Tapas" in 4/4 time. It consists of one system of guitar notation with a standard staff and a TAB staff. The system has 4 measures with chords G, AbMaj7(6#11), G, and Fm9. The TAB notation includes fret numbers and bar lines.

●パート3のエンディング・デモとして、3つの6音ヴォイスングを使った、スパニッシュ的なサウンドのジャムをプレイしてみました。スパニッシュ・フリジアン (G, A^b, B^b, B, C, D, E^b, F) を使ってソロを取ってみましょう。

demonstration 5
"Funky Hemingway"

Also Add Open B+E string

●パート4のエンディング・デモで、E7が4小節のグルーブです。ここでは、ミクソリディアン・スケールの中でコードがモード的に動くと共に、時おりトップの1(E)弦と2(B)弦の開放弦のサウンドも入っています。

demonstration 6
"Less Is More"

●パート5のエンディング・デモで、1小節目のエオリアンから、2小節目のAのハーモニック・マイナーへと動く、ラテン・ジャズ感覚の2コード・ヴァンプです。

demonstration 7
"Sam's Blues"

●パート6のエンディング・デモで、exercise 46を参考にして、トモ藤田とジャム・セッションを行ったものです。譜面も、exercise 46を参考にしてください。

demonstration 8

Ending demo "jump the upbeat"

●今回の作品の最後を飾るエンディング・デモです。I度・V度・VI度・IV度からなる、Aのキーの4コード・ヴァンプをプレイしています。他のギタリストと一緒にプレイし、私達がプレイしたアイデアを試してみてください。

おわりに

皆さんが学びたいと思う何かを見つけることができれば幸いです。一度に2つか3つのパートのみに取り組み、その組み合わせを変えていっても構いません。学ぶことは山ほどありますが、これらのエクササイズをしっかりとマスターすれば、しっかりとしたコード理解の上でプレイできるようになるはずです。健闘を祈り、皆さん自身のコード探求に期待しています。

ジム・ケリー

Special Thanks to:

Thanks to my family, especially Meg, and all the people who helped get this project together.

Also, thanks to PICKBOY for their fine picks.

プロフィール

バークリー音楽院の教授であるジム・ケリーは、同校ギター科の基礎を築いた一人でもある。

その教諭活動はバークリー学内、またはアメリカ国内にとどまらず、ヨーロッパ、南米、日本など、同校の“オン・ザ・ロード”シリーズの一環として世界中を教えて回り、演奏活動も行っている。

30年以上に渡り、ジム・ケリーは何千人ものギタリスト達を教え、励まし、彼らのテクニックを築き上げ、フィーリングを養い、常に自信を持ってプレイできるようにと取り組んでいる。長年に渡って、同校ギター科の中で最も人気の高い教授の一人である。

ジム・ケリーは、実に様々な分野で演奏し続けていることにより、常に実践的な側面を重視した教え方に加え、彼の教える内容に多様性をも与えている。

彼は、スウィング・ブルース・ギタリストのデューク・ロビラードと活動を行い、トニー賞受賞の人気ミュージカル『レント』で演奏し、ロック・シンガーのピーター・ウルフとも共演し、アイルランドを旅して伝統的なアイリッシュ・ミュージシャン達とセッションを繰り広げてきた。

また、彼はバークリー音楽院の交友や卒業生である小曾根真、スチュアート・ハム、ビル・フリゼール、ゲイリー・チャフィー、ジム・オドゥグレン、ケンウッド・デナード、ジョン・アバークロンビー、そしてゲイリー・バートンなどとも共演してきた。

ジム・ケリーは、バークリー・プレス(Berklee Press)社より発売されている"Guitar Workshop"と"More Guitar Workshop"という人気教則作品の著者でもある。同作品は好評を博し、CD付き教則本、ビデオ、DVDといった様々な形で販売されている。また、2002年には、DVD付きムック「演奏能力開発エクササイズ アコースティック・ギター」(小社刊)を発売し、ベストセラーを続けている。

DVD付書籍

演奏能力開発エクササイズ アコースティック・ギター

■著者:ジム・ケリー

(バークリー音楽院ギター科教授)

■監修:トモ藤田

■仕様:B5変/96ページ/DVD付

■定価:2,100円(本体2,000円+税)

■PART1 アルペジオ・エクササイズ

- 1-1 ボーカル・バックイング・スタイル・イントロ1
- 1-2 カントリー・スタイルのハンマリング・オン
- 1-3 ボーカル・バックイング・スタイル・イントロ2
- 1-4 6/8拍子エクササイズ1
- 1-5 6/8拍子エクササイズ2
- 1-6 フラメンコのアルペジオ
- 1-7 ドローン(持続低音)・スタイル・エクササイズ
- 1-8 メロディ付きドローン・スタイル・エクササイズ
- 1-9 ルート~5度~ルート・エクササイズ1
- 1-10 ルート~5度~ルート・エクササイズ2
- 1-11 アコースティック・ロック・ボーカル・スタイル

■PART2 右手・左手、並びに両手のコンビネーション・エクササイズ

- 2-1 アドヴァンス・ボーカル・バックイング・スタイル
- 2-2 アドヴァンス向けカントリー・スタイルのハンマリング・オン
- 2-3 Dマイナー/ペダル上の移動エクササイズ
- 2-4 2分音符上の4分音符エクササイズ
- 2-5 4分音符上の2分音符エクササイズ
- 2-6 インド的モード・エクササイズ
- 2-7 2音ヴォイスイングのコンビネーション・エクササイズ

■PART3 オルタネート・ベースとシンコペーション・エクササイズ

- 3-1 4小節のシンコペート・ポップ・スタイル
- 3-2 トラディショナル・オルタネート・ベース1
- 3-3 トラディショナル・オルタネート・ベース2
- 3-4 24小節のカントリー・ブルース・オルタネート・ベース・エクササイズ
- 3-5 Gマイナー・ブルース・オルタネート・ベース・エクササイズ
- 3-6 Cマイナー・シンコペート・ベース付き4分音符メロディ・エクササイズ
- 3-7 3-6のスタッカート・バージョン・エクササイズ
- 3-8 コンテンポラリー・オルタネート・ベース・エクササイズ

■PART4 ピアノ・スタイル・エクササイズ

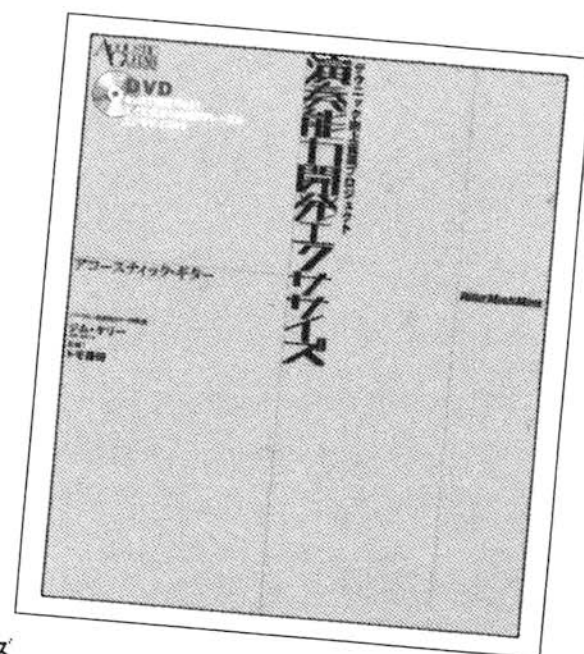
- 4-1 2小節のキーボード・スタイル・グルーヴ
- 4-2 4-1のシャッフル・バージョン
- 4-3 クラシック・ピアノ的エクササイズ
- 4-4 ポップ・ピアノ・スタイル1(4分音符)
- 4-5 ポップ・ピアノ・スタイル2(8分音符)
- 4-6 コンテンポラリー・3/4拍子ピアノ・スタイル
- 4-7 Gマイナーによるファンキー・グルーヴ
- 4-8 Eメジャー・ポップ・スタイル

■PART5 様々なスタイル・エクササイズ

- a. クラシック
 - 5a-1 4分音符のペダル音上の6度インターバル
 - 5a-2 3/4拍子のAマイナー・エクササイズ
 - 5a-3 Aマイナー・エクササイズ#2
 - 5a-4 Gエクササイズ#1
- b. ポップス/ロック
 - 5b-1 ポップス・バラード
 - 5b-2 ポップス8分音符・バックイング
 - 5b-3 シンコペート・ベース付きポップス8分音符・バックイング
 - 5b-4 5b-3のバリエーション
 - 5b-5 E7のポップス・グルーヴ・エクササイズ
 - 5b-6 4分音符のペダル・ノート上のシンコペート・バックイング1
 - 5b-7 4分音符のペダル・ノート上のシンコペート・バックイング2
 - 5b-8 2小節のEマイナー・グルーヴ
 - 5b-9 4分音符のペダル・ノート上の2音ボイスイング~ロック・スタイル
 - 5b-10 ベース音上のペンタトニック・メロディ
- c. ジャズ/ラテン
 - 5c-1 ジャズ・フィールのCマイナー・パターン
 - 5c-2 5c-1のメロディック・バリエーション
 - 5c-3 2分音符のウォーキング・ベース付きG13thコード・エクササイズ
 - 5c-4 5c-3のバリエーション
 - 5c-5 ポップなジャズ・パターン
 - 5c-6 ブラジリアン・スタイル・リズム・エクササイズ1
 - 5c-7 ブラジリアン・スタイル・リズム・エクササイズ2
 - 5c-8 ブラジリアン・スタイル・リズム・エクササイズ3
 - 5c-9 スパニッシュ・スタイル・アルペジオ・エクササイズ1
 - 5c-10 スパニッシュ・スタイル・アルペジオ・エクササイズ2
 - 5c-11 フィンガースタイル・ジャズ・エクササイズ
 - 5c-12 2音によるラテン・ポップ・エクササイズ

■PART6 ドロップDチューニング・エクササイズ

- 6-1 1-4-5コード・エクササイズ
- 6-2 アルペジオによる1-4-5コード・エクササイズ
- 6-3 6-2の12/8拍子バージョン
- 6-4 DマイナーとC/Dコードによるエクササイズ
- 6-5 6-4のバリエーション
- 6-6 メロディ付きDマイナー・エクササイズ
- 6-7 ハンマリング・オンとプリング・オフを使ったメロディとオルタネイト・ベースによるDマイナー・エクササイズ
- 6-8 ドロップDブルース・フィール
- 6-9 Dのペダル音上のDペンタトニック的メロディ・エクササイズ



『ギタリストのための演奏能力開発エクササイズ4』解説書

- 譜面・解説：ジム・ケリー (Jim Kelly)
- 監修：トモ藤田 (Tomo Fujita)
- 浄書：山岡 博 (Hiroshi Yamaoka)
- 翻訳：サム・カワ (Sam Kawa)
- DTP編集：ANTENNA
- 企画制作：株式会社リットーミュージック
- 無断複製・転載を禁じる

VWD-275